

## 鶉野飛行場跡をめぐる

今年2月24日ロシア軍が突如ウクライナに侵攻した。それ以来ロシア軍は破壊・殺戮の限りを尽くしている。このことは新聞やテレビで毎日報道されている。このことを私たちはなにか遠い世界で行われていること、あるいは他人事のように思っていないだろうか。

決して他人事ではないのだ。日本の周囲を見てみよう。北方領土を不法占拠しているロシアがいる。台湾や尖閣諸島を虎視眈々と狙っている中国がいる。核やミサイルの開発に没頭している北朝鮮がいる。実は日本の周りには危険がいっぱいなのだ。

今日は太平洋戦争時の遺産である鶉野飛行場跡をめぐるが、この機会にこれから日本が平和と安全を維持するためには、どうしたらよいか是非考えてみよう。

### 鶉野飛行場とは

太平洋戦争の戦況が悪化しはじめた昭和18年(1943)10月播磨平野ののどかな田園地帯に「姫路海軍航空隊鶉野飛行場」ができた。その目的は二つあった。

目的の一つは優秀なパイロットの養成であった。全国から集められた17才から25才までの若者500余名が30時間の飛行訓練を受け、全国各地の航空隊へと配属された。

忘れてはならないのは、戦局が悪化した昭和20年(1945)2月には特攻隊「白鷺隊」がつくられ、3月には第1陣が大分の宇佐飛行場に向け飛び立った。白鷺隊は5回出撃し、21機の戦闘機と共に63名の前途有望な若者が沖縄の空に散っていった。終戦までのわずか2年に満たない時間の中で青春をかけた多くの若者の姿がここにあった。

もう一つの目的は戦闘機紫電、紫電改の試験飛行であった。川西航空機姫路製作所で製造され、一旦分解し、併設された川西航空機鶉野工場に運ばれ再組立てされた。紫電改は旧日本海軍の最優秀機といえる局地戦闘機であったという。510機ほどは組み立てられた。

それにしても全長1200m、幅60mの滑走路がほぼ当時のままに残っているのは驚きである。



## (1) 北条鉄道法華口駅

大正4年(1915)に建てられたもので、100年以上経過している。その趣のある駅舎は「国登録有形文化財」に登録されている。

## (2) 爆弾庫跡

爆弾や機銃弾を保管していた倉庫で、頑丈なコンクリート造(コンクリートの厚さは壁が70cm、天井は1m)で、1トン爆弾にも耐えられる構造といわれる。上には土を被せて上空から発見されないように工夫されていた。当時この付近には爆弾庫が三つあったが、現存するのはこれだけである。



## (3) 素掘防空壕跡

山の斜面を掘っただけの防空壕であるが、コの字型に掘られており、10mほど離れて二か所の出入口を確保している。内部は高さ、幅ともに2m程度の空間がある。前面道路は基地入口に繋がる道であった。当時は周囲に大きな木などなく、空襲に狙われやすい地形であり、この道路に沿った東側の斜面に防空壕がいくつも掘られたと思われる。



## (4) 門柱・衛兵詰所跡

姫路海軍航空隊の基地入口であり、衛兵の詰所と訪問者との面会所があった。看板のかかった門柱と衛兵詰所は平成30年8月に復元された。



## (5) 対空機銃座跡

対空機銃座は飛行場内と周辺に合わせて5か所あったが、現在は4か所が残っている。その中でもここは地下室を含めてほぼ完全な形で残っている。機銃座に設置されていたのは25mm機銃が二つ並ぶ連装机銃で、1分間に230発の弾を発射でき、5000mの高さまで届いたそうである。



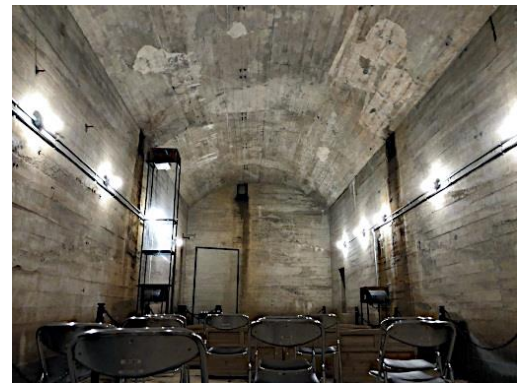
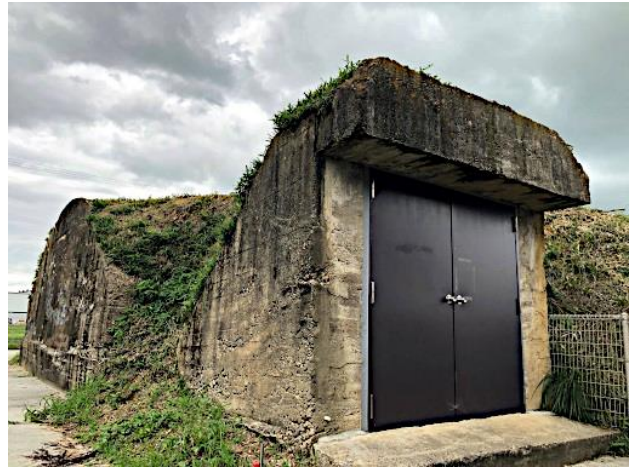


## (6) 巨大防空壕跡

ここは鶴野飛行場周辺で最大の防空壕である。長さ14.5m、幅5m、高さ5mの大きな空間となっている。

空襲などにより姫路海軍航空隊の基地が停電した際、通信・照明などのトラブルが発生しないように発電機を備え、自家発電室として使用された。現在でもコンクリート製の発電機台座や排水用の溝が残っている。高温、騒音のために天井を高くし、換気に配慮した構造になっている。

外部は土を盛り、あたかも小山のようにカモフラージュされていた。



## (7) 地下防空壕(地下指揮所跡)

防空壕はコンクリート造りで、2部屋あり、東部屋が縦3.7m、横4.7m、西部屋は縦3.7m、横3.1mである。両部屋ともに天井はドーム状で、高さは最大約3m、壁の厚さは約1.5mの所もあり、頑丈に造られていた。地上と部屋を結ぶ通路は2ヶ所あり、それぞれ全長約10m。外からの爆風が入り込んでも部屋まで届かないよう各通路は曲がり角が3ヶ所あった。



この防空壕は周囲に地上指揮所や戦闘機を収納する格納庫があった状況から、空襲時に避難できる地下指揮所であったと推測できる。



## (8) 鶉野飛行場滑走路跡

太平洋戦争当時、全長 1200m、幅 60mのコンクリート製滑走路があった。現在は幅 45m部分が残っており、全国でも貴重な戦争遺産である。この滑走路では、主に川西航空機鶉野工場で組み立てられた紫電や紫電改の試験飛行に使用された。このコンクリート製滑走路とは別に、地面を重いローラーなどで押し固めた転圧滑走路が 2 本あり、主に姫路海軍航空隊の練習飛行に使用されていた。

## (9) sora かさい

鶉野飛行場周辺の戦争遺産めぐりや平和学習などの拠点として、今年 4 月 18 日オープンした。

大戦末期にこの地で紫電改などの海軍機が組み立てられ、訓練を積んだパイロットたちが特攻隊「白鷺隊」となった歴史を語り継ごうと加西市が令和 2 年から約 7 億円をかけて整備した。

館内には紫電改や九七式艦上攻撃機の実物大の模型を展示している。(紫電改は全長約 9m、幅約 12mで、コックピット内部の計器まで忠実に再現されている。強力なエンジンを備え武装は 20mm 機関砲を 4 門搭載していた。)

また「白鷺隊」の隊員たちの遺書なども紹介している。

この施設の名称は一般から募集された。「空」がつながり平和、「空」がつながり交流、「空」から大地への恵みという願いが込められており、「sora」の頭文字には次の意味を持たせている。

**Scenery** : 風景    **Opportunity** : 好機    **Region** : 地域    **Activity** : 賑わい



## (10) 鶉野平和祈念の碑

平成 11 年に旧海軍関係者、地元有志が協力し、鶉野飛行場跡を貴重な歴史遺産として後世に伝えるとともに、尊い犠牲の上に築かれた平和が、永遠に続くことを祈念し、鎮魂の想いを込めて建立された。

当初は滑走路脇に作られたが、「sora かさい」のオープンに伴い現在地に移された。





## (11) 対空機銃座跡

もう一か所機銃座跡へ行く。機銃が設置されているが、もちろん当時のものではない。これは2005年に上映された映画「男たちの大和」の撮影に使われた実物大の模型である。東映太秦撮影所に保管されていたのを借用しているとか。模型を保護するために小屋がかけられている。

これからも銃口から火が吹くことがないように平和を維持しなければなりません。



## (12) 無蓋掩体壕

これは飛行機を敵の目から隠す無蓋掩体壕である。今の言葉でいえばシェルター、覆いのないシェルターである。半円形の堤になっており、上から見ればアルファベットの「C」の字型をした土塁である。ここに戦闘機を入れ木の枝や葉で覆い空襲から守った。

ここにある飛行機は実は米国の練習機であり、日本軍機のように塗装されている。米国海軍機SNJと呼ばれているもので、自衛隊の発足時に導入され、「T-6」と呼ばれていた。海上自衛隊の「鹿屋航空基地資料館」から貸与されている。



(次回予告)

(2022. 11. 23)

**兵庫史を歩く No. 30 丹生山田の里めぐり**

日本最古の民家「箱木千年家」の一般公開が再開されました

